

4 - 10 中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動 (1979年1月～1979年6月)

Seismicity in the Eastern Chugoku, Northern Kinki and Hokuriku Districts,
Southwest Japan (January, 1979 ~ June, 1979)

京都大学防災研究所 鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所
京都大学理学部 阿武山地震観測所
Tottori Microearthquake Observatory and Hokuriku Microearthquake Observatory,
Disaster Prevention Research Institute:
Abuyama Seismological Observatory, Faculty of Science, Kyoto University

標記の地域における1979年前半期(1月～6月)のサイスミシティを示す。この報告は1976年後半期(7月～12月)から半年毎に行っているが、表示方法については本会報第18巻を、これまでの報告については参考文献^{1),2),3),4),5)}を参照されたい。

1. 阿武山地震観測所の結果(第1図):

全般的に従来の活動と大差はない。前期(1978年後半)に盛であった和知地域の活動は、この期間かなり下火となり、震央分布もぼやけてきた。

妙見・阿武山を中心とする地域の活動は、前期に引き続き依然高く、数では全体の3割近くを占めている。

6月1日07時33分の阿武山西方約8km、深さ10km、M3.8の地震は6個の前震を伴った。一方、4月12日13時59分宇治の東方約20km、M4.3の地震は、前震を全く伴わず、余震2個のみであった。

2. 北陸微小地震観測所の結果(第2図):

北陸地域では、福井地震断層から琵琶湖北東部にかけての分布がきれいな線状をなしているのが目立つ。この線状分布の北端は、1952年大聖寺沖地震震央とほぼ同位置にあり、そこに2月14日M4.2(JMAによれば4.5)の地震が起った。

御岳付近の活動は活発である。また、若狭湾にも引続き活動が見られる。

丹後半島北方に群発活動があった。これは後述の鳥取の観測によるものと同じであるが、北陸観測網の1976年5月～1978年12月の期間の観測では、この近傍には1つしか震央が求まっていない。

3. 鳥取微小地震観測所の結果(第3図):

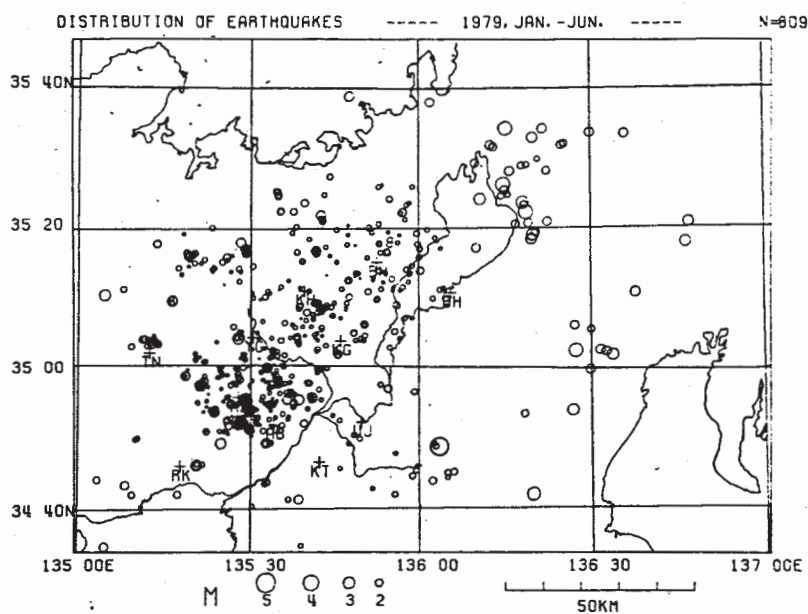
山崎断層に沿う活動が比較的活発であった。前期に米子付近に比較的大きい群発活動があったが、今期はやや南の日野町付近に密集した活動となった。

丹後半島の郷材断層の延長上の日本海に起った群発活動は、北陸で観測されたものと同じも

のである。先に述べたように、この場所に今回のような活発な活動が起るのはむしろ珍しく、前述の福井断層およびその延長上の活動と時を同じくして発生したのは興味深い。

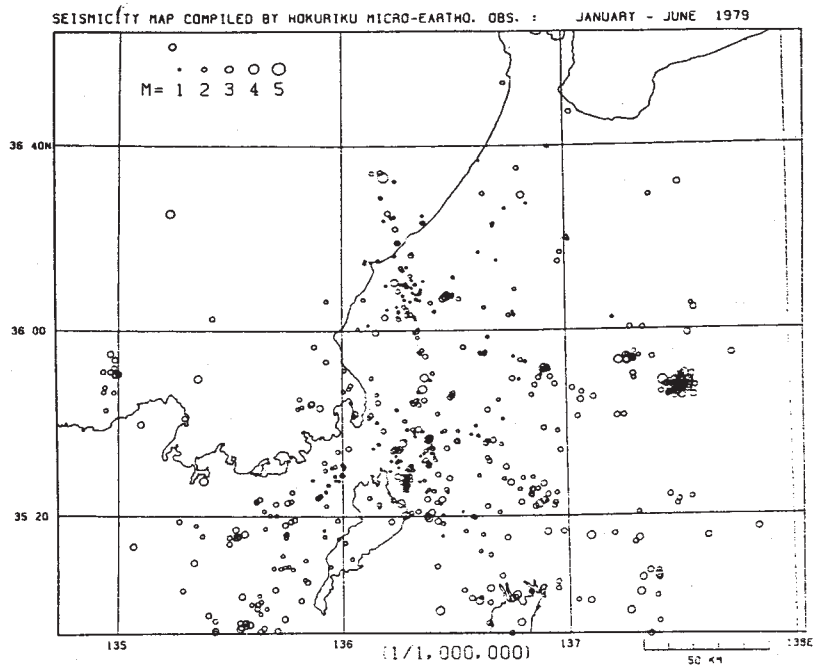
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・北陸微小地震観測所，理学部阿武山地震観測所：中国東部・近畿北部・北陸地域における地震活動（1976年7月～1976年12月），連絡会報，**18**（1977），104 - 106。
- 2) 同上：同上（1977年1月～1977年6月），連絡会報，**19**（1978），120 - 121。
- 3) 同上：同上（1977年7月～1977年12月），連絡会報，**20**（1978），155 - 157。
- 4) 同上：同上（1978年1月～1978年6月），連絡会報，**21**（1979），112 - 114。
- 5) 同上：同上（1978年7月～1978年12月），連絡会報，**22**（1979），176 - 178。



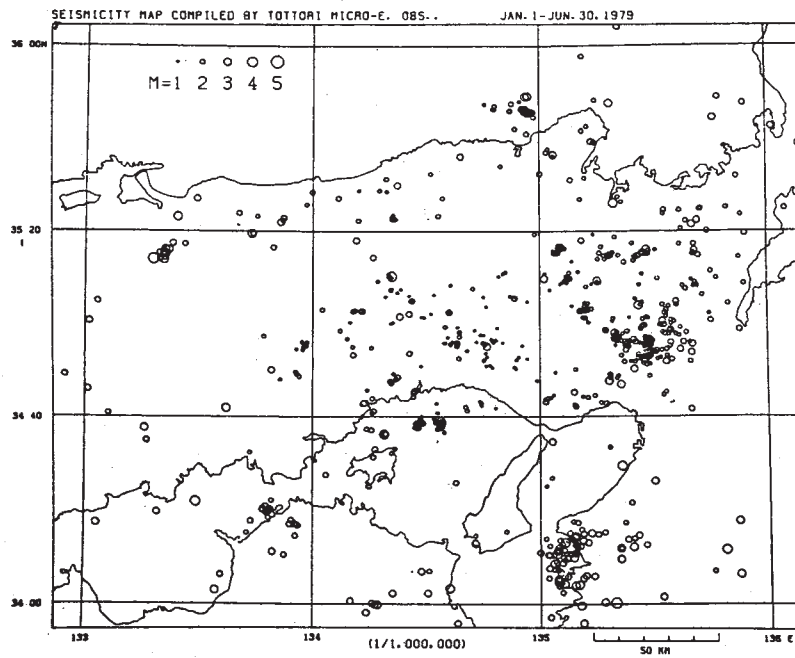
第1図 阿武山地震観測所による震央分布図

Fig. 1 Seismicity map by the Abuyama Seismological Observatory.



第2図 北陸微小地震観測所による震央分布図

Fig. 2 Seismicity map by the Hokuriku Microearthquake Observatory.



第3図 鳥取微小地震観測所による震央分布図

Fig. 3 Seismicity map by the Tottori Microearthquake Observatory.